

ふりがな 氏名	なかにし こうすけ 中西 康祐	職名	准教授
取得学位	博士(保健学)	学会での受賞歴	なし
主な担当科目	作業療法学概論 老年期障害作業療法学		
所属学会	日本作業療法士協会 長野県作業療法士会、日本認知症ケア学会、日本認知症学会、日本認知症予防学会、日本老年精神医学会		

◆ 教育業績

事項	実施年月(日)	概要
1 教育方法の実践例 1) 視聴覚教材の活用	平成29年4月 より令和4年3月まで	老年作業療法評価学演習、老年期障害作業療法治療学、認知症の作業療法、生活動作活動評価学、福祉用具論、ユニバーサル環境論において、臨床における治療介入場面や社会の最新動向の映像・画像を用いて、理解の促進に活用した。
2) 授業外における学生の能力を伸ばす取組	平成30年4月 より令和4年3月まで	学修意欲が高く更なるアカデミックスキルの向上を希望する学生に対して、作業療法のエビデンストピックスを記した英語研究論文の抄読会を開催し、学生の学修向上の取り組みを実践した。
3) 作業療法介入プロセスの理解を促進する取組	平成30年4月 より令和4年3月まで	作業療法演習Ⅰ、作業療法演習Ⅱ、作業療法演習Ⅲにおいて、少人数制のもと、老年期、身障、精神疾患の各患者のペーパーペーシェントによる事例基盤型学習をおこない、実習前学習の一環として評価治療プロセスの理解の向上に対する支援を実践した。
4) 基本的専門知識の定着を促進する取組	平成30年4月 より令和4年3月まで	作業療法演習Ⅰ、作業療法演習Ⅱ、作業療法演習Ⅲにおいて、前年度までに学修した専門知識の定着を促進する方策として、年度初めに確認試験を実施した。
5) 基本的専門技能の定着を促進する取組	平成30年4月 より令和4年3月まで	作業療法演習Ⅰ、作業療法演習Ⅱ、作業療法演習Ⅲにおいて、臨床実習前の基本的専門技能（評価測定手技・治療介入・コミュニケーションスキル等）の学修到達度を図る目的で客観的臨床能力試験（OSCE）を実施した。
6) 臨床実習の教育効果を高める取組	平成30年4月 より令和4年3月まで	指定規則の改正に伴い推奨される前より診療参加型臨床実習（CCS）を評価実習、臨床総合実習においていち早く導入し、学生の精神的負担を軽減した教育効果の高い実習を実践した。
7) GPA を用いた復習強化型学修支援	平成31年4月 より令和4年3月まで	老年作業療法評価学演習において、成績下位学生に対する学修支援策として、GPA 値をもとに成績下位の学生を抽出し、ICT を活用して授業毎に復習課題を提示し繰り返し学習を実践した。
8) リモートによる遠隔授業	令和2年4月より 令和4年3月まで	COVID-19 の感染予防対策として実施している web 回線によるリモート授業について、オンラインによる双方向参加型授業を実施した。また、臨床場面と web 回線をつなぎ、患者との面接・観察評価をおこない、リモートによる臨床参加型学習を実施した。いずれも、対面授業型と同質の教育の提供に努めた。

事 項	実 施 年月(日)	概 要
2 作成した教科書, 教材 1) 学生ポートフォリオの開発	平成30年4月 より令和4年3 月まで	学生個々の学修課題の発見や主体的な学修支援の促進を目的に、少人数制のもと学生と教員がマンツーマンで課題解決に向けて取り組める行動目標達成型のポートフォリオを開発し使用している。
2) 事例基盤型学習に用いる教材	平成30年4月 より令和4年3 月まで	ICFに基づく作業療法の評価治療プロセスの理解促進を図る目的で、2年生から4年生まで学修到達目標に合わせたオリジナルの老年期、身障、精神疾患の事例検討課題の資料を作成し教材として用いている。
3) 客観的臨床能力試験 (OSCE) に用いる教材	平成30年4月 より令和4年3 月まで	評価測定手技と治療介入の OSCE マニュアルを作成したのに加えて、他の養成校ではほとんど例を見ない日常生活動作の介助場面を想定した評価治療介入シートを開発し教材として使用している。
4) 診療参加型臨床実習 (CCS) に用いるマニュアル	平成30年4月 より令和4年3 月まで	研修会で得た情報や先行して実施している他大学の資料を参考に、新たに CCS マニュアルを作成し臨床実習の手引きとして使用している。

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所 / 誌名・巻号 / 学会・展覧会・演奏 会の名称(会場名)	備 考
論 文	認知症高齢者の QOL 向上にむけた ADL 支援プロトコル構築のための在宅の基礎的調査. (査読付)	共	平成29年7月	日本認知症ケア学会誌.16(2):	中西康祐、大浦智子、池谷政直 P461-469
	グループホームで暮らす認知症高齢者の ADL の遂行状況と主観的 QOL との関連の予備的調査. (査読付)	共	平成29年9月	長野県作業療法士会学術誌.35:	中西康祐、務臺均 P88-93
	介護老人保健施設に入所する認知症高齢者への ADL 支援プロトコルを用いた介入が主観的 QOL の向上と介護スタッフのやりがいの向上につながった一事例. (査読付)	単	平成30年3月	健康科学大学紀要.	P83-94
	精神科長期入院患者を対象とした Illness Management and Recovery の実践報告. (査読付)	共	平成31年1月	日本臨床作業療法研究.6:	池谷政直、山鹿隆義、岩田悠弥、中西康祐 P1-6
	認知症のある男性に対して“仕事”に焦点を当てた介入 ～高度経済成長期を支えた世代が主体的に取り組める活動～. (査読付)	単	平成31年3月	認知症ケア事例ジャーナル.11(4):	P281-286
Effects of liaison between physiotherapists and occupational therapists for home-visit rehabilitation: Preliminary study. (査読付)	共	平成31年5月	Journal of Physical Therapy Science .31(8): 612-616	Katsutoshi A, Takayoshi Y, Hitoshi M, Daisuke S, <u>Kosuke N</u> P612-616	

	地域在住要介護高齢者の睡眠と生活活動の関係についての探索的研究 (ポスター)	共	令和2年9月	第54回 日本作業療法学会(新潟市)	浅野克俊, 山鹿隆義, 清水大介, 務台均, 中西康祐 PN-58
	軽度認知症患者のADLの performance と capacity の乖離 (ポスター)	共	令和3年11月	第40回日本認知症学会学術集会 (東京)	中西康祐, 山鹿隆義, 浅野克俊, 池谷政直 P192
その他 (報告書)	高齢ドライバーが長く安全に運転するための反射神経や認知能力向上に役立つ体操について	単	平成31年年6月14日	山梨日日新聞社	高齢ドライバーの安全運転に関する記事執筆